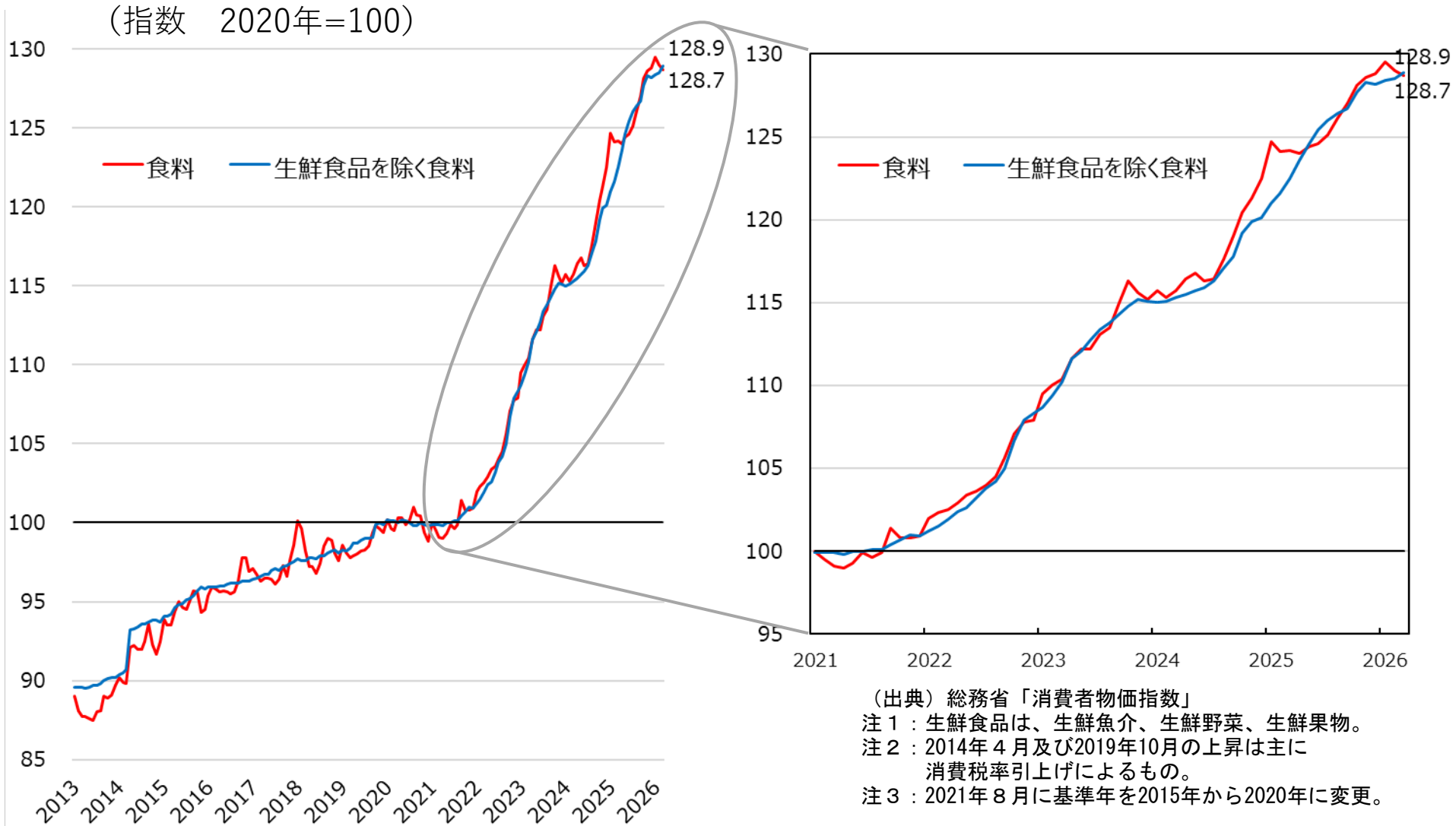


食品価格の動向（日本）

令和8年3月

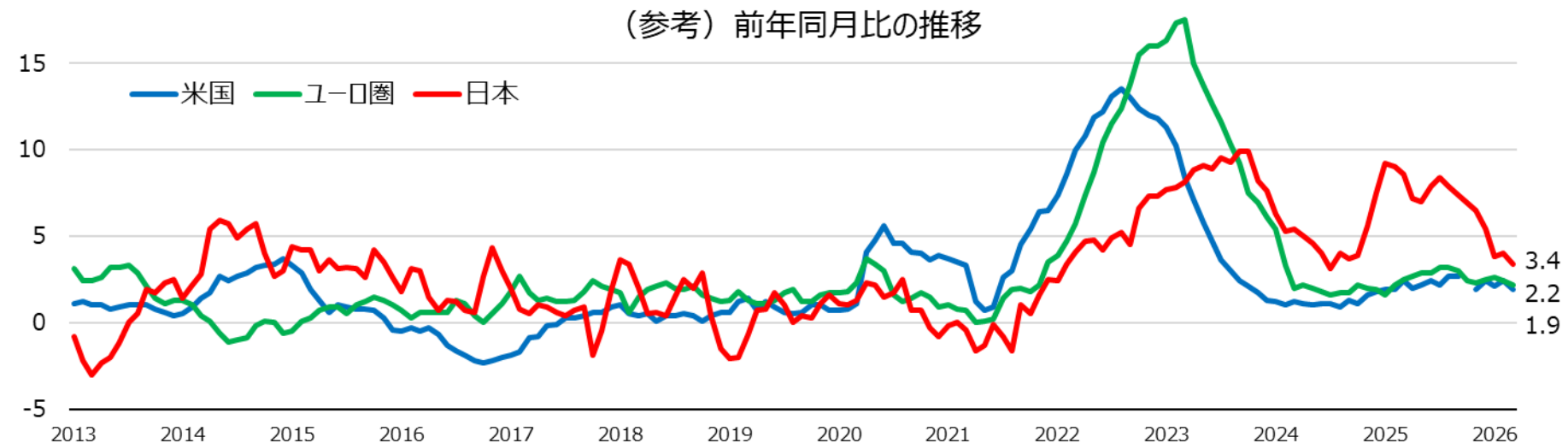
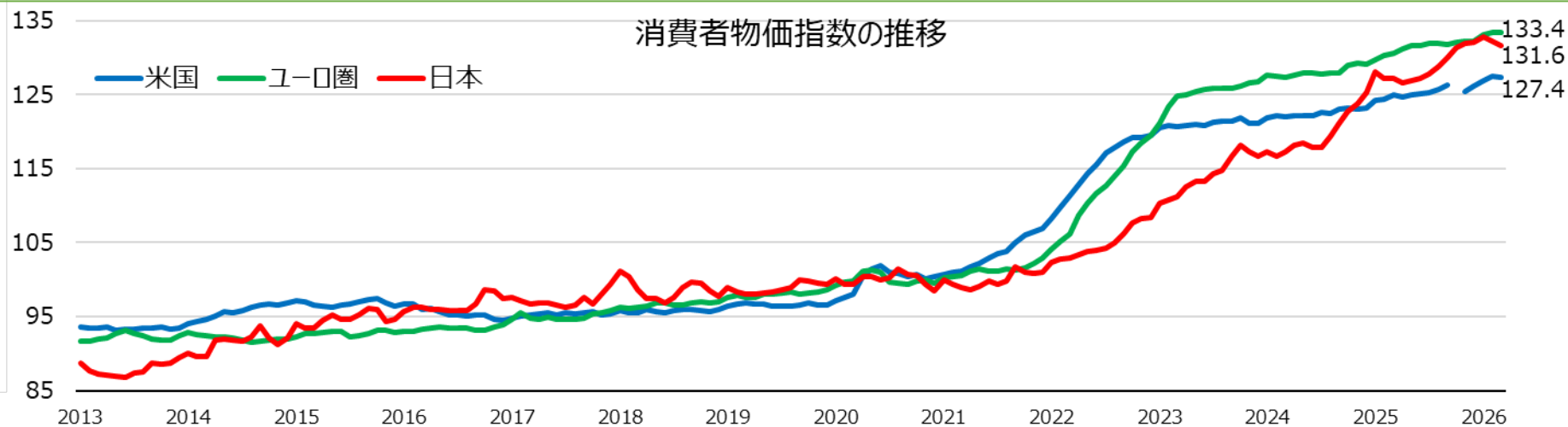
- 2014年頃以降、食料の消費者物価指数は一貫して上昇傾向。
- 特に2021年夏以降、輸入原材料価格の高騰や物流コストの上昇等により、原材料を輸入に頼っている食品を中心に価格が上昇。また2024年夏以降、米の価格が高騰していることも上昇の要因。



食品価格の動向（諸外国との比較）

令和8年3月

○ 米国、ユーロ圏においても食料の消費者物価指数は上昇（日本：131.6、ユーロ圏：133.4、米国：127.4）。



(出典) 日本：総務省「消費者物価指数」、ユーロ圏：EU「EUROSTAT」、米国：米国労働省「LABSTAT」

注1：酒類・外食を除く。

注2：ユーロ圏は時点当時、通貨としてユーロを採用しているEU加盟国。

注3：米国のデータについては2025年10月分が未公表のため、不連続のグラフとなっている。

注4：日本の2014年4月及び2019年10月の上昇は主に消費税率引き上げによるもの。

注5：日本は2021年8月に基準年を2015年から2020年に変更。各国の出典の基準年はEUが2025年、米国が1982-84年であり、本資料の数値は農林水産省にて2020年を基準年として換算したものの。